

| 受託記念企画展 | 広正製陶・半谷孝コレクション

世界へ羽ばたいた和製マジョリカタイル

金型の精緻・精巧美の世界



▲広正製陶タイル金型〈ラクシュミー〉
会沢則子 蔵（モザイクタイルミュージアム寄託）

撮影地：インド▶
写真提供：豊山亜希



2020年 5月23日(土)－9月6日(日)

会場／多治見市モザイクタイルミュージアム 3F ギャラリー

休 館 日＝月曜日(休日の場合は翌平日) 開館時間＝午前9時～午後5時(入館は午後4時30分)

主 催＝多治見市モザイクタイルミュージアム 企画協力＝加藤郁美(月兎社)

観 覧 料＝[一般] 310円、[団体] 250円(常設展観覧料でご覧いただけます)

高校生以下無料、障がい者手帳をお持ちの方及び付き添い1名様無料



モザイクタイルミュージアム
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

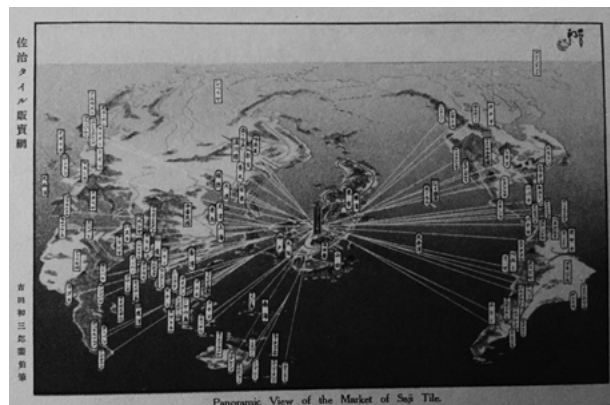
金型の精緻・精巧美の世界

2020年 5月23日(土)ー9月6日(日)

会場 多治見市モザイクタイルミュージアム 3F ギャラリー



〈インド人商人と半谷音吉家〉会沢則子 蔵



「佐治タイル販売網」加藤郁美 蔵

この度、広正製陶創業者・半谷音吉氏の次男であり、工場主任であった故・半谷孝氏が長年に渡って守ってきたマジョリカタイルの真鍮金型63点が、多治見市モザイクタイルミュージアムに寄託されることとなりました。中でも、インド人商人からの依頼を受けて製作された、ヒンドゥー教の神々をモチーフとするタイルの金型は、これまで確認され得なかった極めて稀少な現存品であり、またそれ自身、精緻な工芸品です。

インドの地に、多くの和製マジョリカタイルが輸出されたこと、そして今も現地の建築物にその姿をとどめ、人々に親しまれていることが、近畿大学准教授豊山亜希氏の調査によって確認されました。いっぽう、大正期のタイルメーカーを訪ね歩いてきた加藤郁美氏の調査により、半谷孝氏がインド向けの輸出用タイルの金型を保存しておられたことが判明し、日本側からも輸出用マジョリカタイルの生産のあり方を辿ることができるようになりました。

本展は、半谷家ご遺族様、加藤郁美氏のご協力を得まして、これらの貴重な金型と、タイル製品を披露する初めての展観です。豊山亜希氏がインドで撮影された現地の写真と合わせ、大正期から世界へと大きくはばたき、輸出先の文化・美意識に応える製品を作り続けてきた、日本タイル産業の姿に迫ります。

関連企画

■加藤郁美ギャラリートーク

日時：8月8日(土) ①午後2時～ ②午後4時～

加藤郁美 プロフィール

北海道生まれ。早稲田大学文学部哲学科卒。著書に『にっぽんのかわいいタイル：昭和レトロ・モザイク篇』『切手帖とピンセット：1960年代グラフィック切手収集の愉しみ』ほか。

■講演会

日時：8月9日(日) 午後1時

講師：豊山亜希(近畿大学准教授国際学部准教授)

会場：笠原中央公民館

日時：8月9日(日) 午後3時

講師：加藤郁美(編集者・『にっぽんのかわいいタイル』著者)

演題：「人との出会いで知るタイルの歴史：笠原タイル、広正タイル」
「輸出用マジョリカタイル事始め」

会場：笠原中央公民館

関連企画はお申込みが必要です。更新情報、詳細はホームページをご参照ください。

お問合せ・お申込み先／多治見市モザイクタイルミュージアム

担当／村山 TEL 0572-43-5101 FAX 0572-43-5114 URL <https://www.mosaic-tile-museum.jp/>



■公共交通機関 名古屋から、JR中央本線下り、多治見・中津川方面行き、多治見駅下車。多治見駅から東鉄バス(約20分の乗車)、東草口行き、羽根行きにて、モザイクタイルミュージアム下車。

■自動車 多治見ICから約25分。土岐南多治見ICから約15分。

※駐車場は笠原中央公民館などの合同駐車場です。駐車スペースに限りがありますので、公共交通機関のご利用をお勧めします。

※【ご注意ください】カーナビの設定について当館の電話番号で設定されますと、過去にその番号を使っていた別の場所に導かれてしまいます。住所もしくは笠原中央公民館に設定してください。



モザイクタイルミュージアム

MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

〒507-0901 岐阜県多治見市笠原町2082番地の5 TEL 0572-43-5101 FAX 0572-43-5114 URL <https://www.mosaic-tile-museum.jp/>

